

再生し、まちにひらく  
RIAのリノベーション



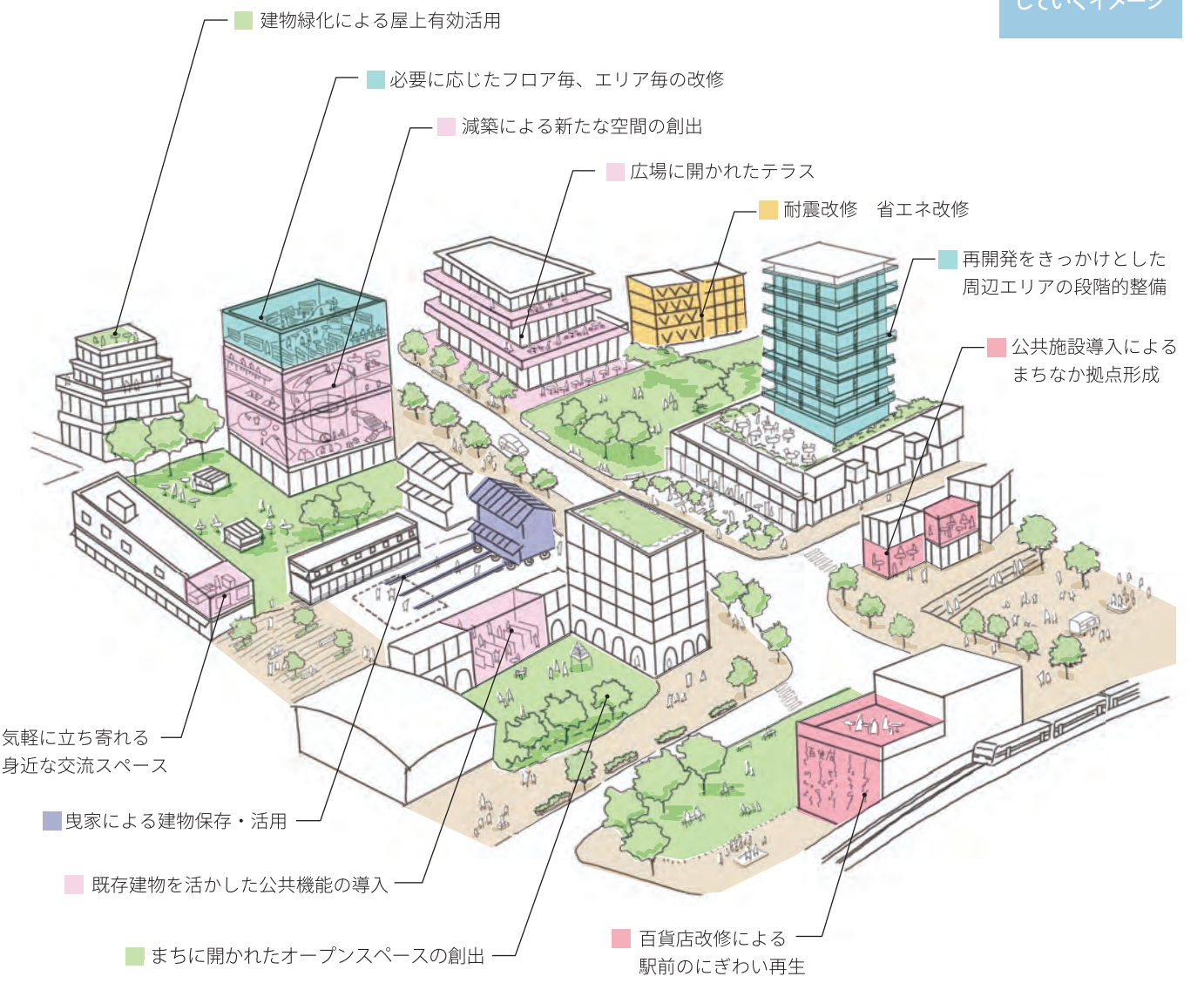
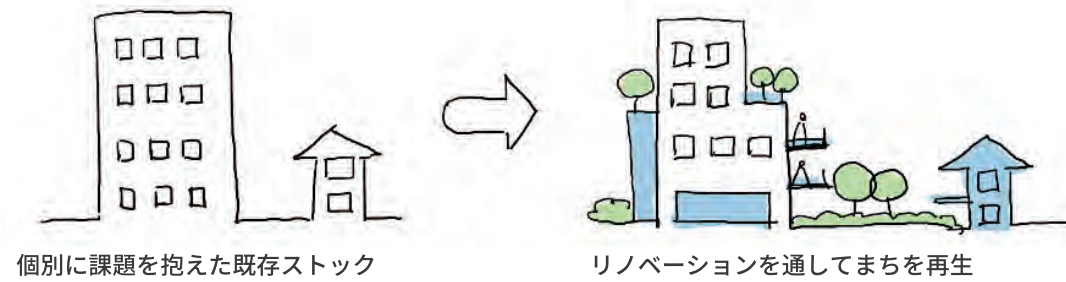
# 再生し、まちにひらく

RIAのリノベーション

市民やまちのニーズは常に変化しており、その変化を踏まえた多様な価値や持続可能な社会を創造する、段階的なまちづくりの手法が求められています。

今のまちに必要なものを的確に把握しつつ、まちづくりのプロ集団として積み重ねてきたノウハウと、時に大胆な発想を持ち込み、既存ストックの価値を最大化する知恵と技術による挑戦を続けてまいります。

リノベーションで  
まちを再生  
していくイメージ



## RIA リノベの3つの視点

施設の老朽化や耐震診断の義務化、法的不適合、厳しい財政状況、社会ニーズの多様化によるにぎわいの衰退など、さまざまな建物やまちの課題に対して、3つの視点で解決策を提案します。

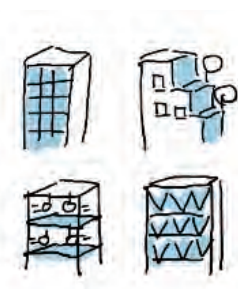
### 1 持続するまちづくり



ひとの暮らしに寄り添った、連続的な設計と開発により、新しいまちの姿を創造します。

- ・まちの拠点を創造する
- ・まちの財産を活かす
- ・建物をまちにひらく
- ・地域のひとを巻き込む
- ・継続的なまちの再生

### 2 建物の再生・活用



地域の既存ストックを活かし、建物再生の提案により、まちの価値を高めます。

- ・建物の長寿命化
- ・ライフサイクルコスト低減
- ・省エネルギー対策
- ・耐震診断義務化への対応
- ・法令への適合

### 3 事業の組み立て



資金計画や関係者の合意形成など再生に向けた事業の組み立ての支援を行います。

- ・建物用途のミスマッチ改善
- ・工事費・事業費の試算
- ・補助金等の助成制度の活用検討
- ・関係権利者や周辺住民との調整
- ・事業工程の組み立て

## まちにひらく 様々な再生手法の例



**まちなかの拠点を つくる**  
まちなか拠点の形成、交流の場の創出、活動の場の創出



**新たな機能を 導入する**  
新たな用途や機能の導入、公共施設の導入、防災機能強化、情報化への対応



**段階的・部分的に 整備する**  
建物の一部分を整備、フロア毎に段階的整備、複数棟を段階的に整備



**建物を再生・活用する**  
耐震補強、設備更新、省エネ改修、増築、減築、ファサードリノベーション、内装改修



**地域の財産を活かす**  
歴史的建造物の曳家、免震レトロフィット、修理・修復



**外部環境を活かす**  
建物屋上の立体的活用、敷地内空地の活用、公共空間との一体的整備



# 美馬市地域交流センター ミライズ Mima Regional Exchange Center "MIRAIZU"

## 『地域の歴史を紡ぎ、新たな役割を担う交流拠点へ』

転換期を迎えた大型ショッピングセンターに、新たな公共施設機能を集約し、まちの活動やにぎわいがあふれる施設づくりを目指しました。



**まちなかの拠点**  
歴史的なまちなみに連続した、新たな地域交流拠点を創出



**部分的・段階的に整備**  
駐車場やスーパーマーケットを残しつつ、専門店部分を改修



**新たな機能を導入**  
さまざまな公共施設機能を導入し、にぎわいを創出



**建物を再生・活用**  
ショッピングセンターの外壁を保存しつつ、内部を一新

BEFORE

商業施設



AFTER

ホール・図書館  
市民センター他



図書館



音楽ホール

### 閉業したショッピングセンターを地域交流センターとして再生

美馬市の観光地「うだつのまち町並み」に隣接する1987年に開業したショッピングセンターは、時代の変遷に伴い専門店が閉店し、建物の半分以上が使われていない状態にありました。美馬市が建物を取得し、市内初の音楽ホール・市立図書館の移転・市民サービスや地域交流スペースの充実化といった施設整備計画にあわせ、スーパーを改装し、美馬市の新しい地域交流拠点「ミライズ」が誕生しました。



改修前・2階日用品売場



手を加えず保存した街並みに調和した外観



地域交流センター



ホールホワイエ



音楽ホール

### Project Data

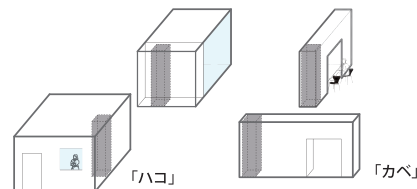
所在地/徳島県美馬市  
面積 敷地/12,540.60㎡ 建築/7,525.47㎡  
延床/23,342.36㎡ 改修/9,945.51㎡  
構造規模/RC造・地下1階地上2階建  
竣工完成/平成30年2月

## 1. まちのストーリーをつなぐ

うだつのまちなみと調和のとれた外観は、基本的には手を加えず保存したのに対して、内部空間はRC柱が8mスパンで均等に建ち並ぶ無機質な空間のため、うだつのまちなみや周辺のスケールに合わせる工夫を行いました。

市民が活動する室を「ハコ」、様々な機能を有する場を「カベ」とし、柱を内包しながら、2つの構成要素で全体の空間を緩やかに分けました。

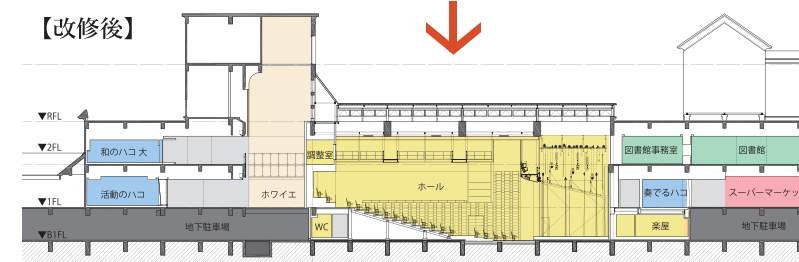
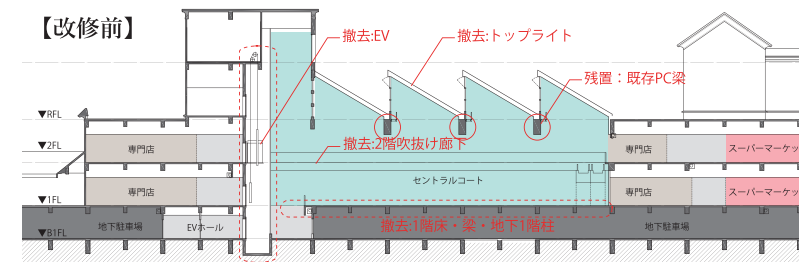
大小様々なスケールのパブリックゾーンが生まれ、自分だけの居場所を見つけだせるような多様な場を創出しました。



## 2. 新たなコンバージョン手法

ショッピングモールの吹抜け空間を利用し、500席の本格的な音楽ホールに改修した計画です。

1階床を減築し、3層の吹抜空間を創出することで、音楽ホールとして十分な客席の気積の確保を可能としました。新築のホールにも劣らない残響時間と音の響きを得ることができました。



断面図

## 3. さまざまな課題解決手法

さまざまな課題を着実に解決していくことで、理想とする空間を実現しています。

- ✓ 公共機能の集約による新たなまちの核となる市民活動の場の創出
- ✓ 民間企業との連携によるにぎわいの創出と交流の場づくり
- ✓ 既存建物を活かし歴史的まちなみとの調和を図る外観の創出
- ✓ 減築によりコストを抑え新たな機能へ転換
- ✓ 床の撤去により3層吹抜けの大空間の創出
- ✓ 広い床面積を活かしたゆとりのある空間・環境づくり
- ✓ 既存躯体を見せないことによる空間の変化



# こまきこども未来館

Komaki Children's Miraikan

## 『既存ビルを立体的に生かす百貨店ビルリノベのプロトタイプ』

再開発ビルの空き床を一部活用して、安全かつ開放的な大空間を新たに整備し、地域の子どもと共に成長する持続可能なまちの拠点をストック活用で生み出し、新しいまちの拠点を生みだしました。



くつろぎスペース こどもを見守りながらゆっくり過ごせるスペース



**まちなかの拠点**  
駅前には市民サービス向上に寄与する公共施設を導入し、にぎわいを創出

**新たな機能を導入**  
子どもと共に成長する世代を超えた交流の生まれる市民の居場所を整備

**部分的・段階的に整備**  
交流、居心地、開放性を意識した整備、ビルの一部を立体的に改修

**建物を再生・活用**  
駅前商業ビルを活用 床を抜いて吹抜空間を創出



既存建物の無機質な空間を「居心地の良い空間」に改修

20年以上前に建設された既存の商業施設は、天井が低く柱が均等に並ぶ無機質な空間で構成されていました。改修にあたり「緑を感じられる空間」「カラフルな色彩」「吹抜・天井高さの確保」をテーマとし、居心地の良い空間・子どもたちがわくわくするような空間づくりを目指しました。



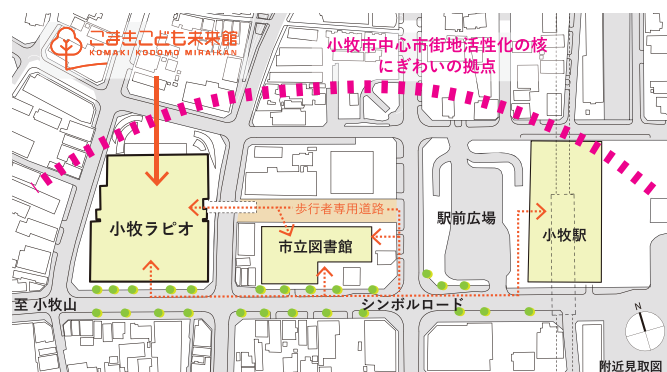
改修前：商業施設の均質・無機質な空間

### Project Data

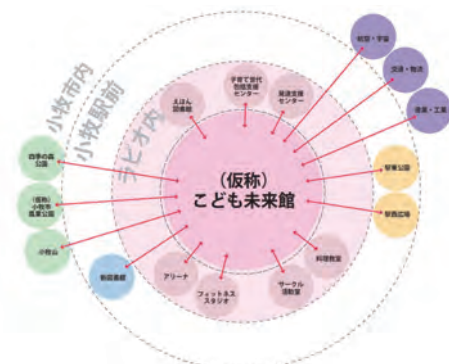
所在地／愛知県小牧市  
面積 敷地／9,863.41㎡ 建築／7,373.31㎡  
延床／48,785.14㎡ 改修／6,305.70㎡  
構造規模／SRC造・地上5階建（2～4階部分改修）  
竣工完成／令和2年7月

## 1. まちとつながる

小牧駅前という立地環境を最大限に活かし、同じく小牧駅周辺に整備される新小牧市立図書館との連携や駅前広場との融和など、世代を越えた人々の交流が生まれる居場所づくりを行いました。

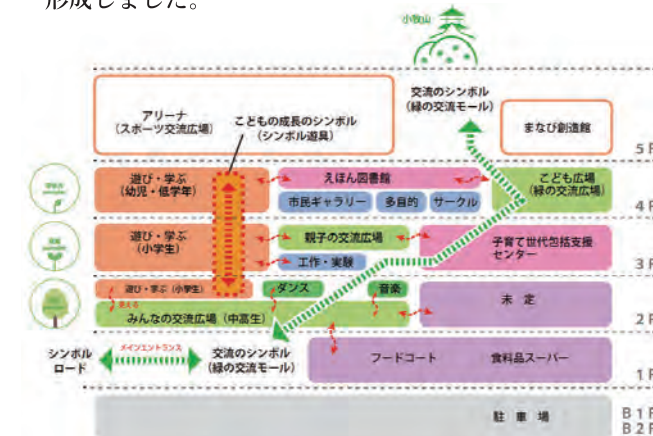


小牧山から続く、こども未来館～新図書館～駅西広場～小牧駅～駅東公園の一体的な賑わい軸を形成します。こどもを軸に多年代が訪れる施設づくりで、小牧駅前中心市街地の活性化の核となります。



## 2. 立体的につながる

建物内に立体的に整備することで、建物内の多様な施設とも連携し、中心市街地の核となる多世代交流の拠点を形成しました。



## 3. さまざまな課題解決手法

さまざまな課題を着実に解決していくことで、理想とする空間を実現しています。

- ✓ 周辺施設との連携による人々の交流が生まれる場づくり
- ✓ スラブ撤去による上下階のつながり（吹抜空間）の創出
- ✓ こどもが安心・安全に遊べる空間づくり
- ✓ 大空間を可能とする構造・設備検討
- ✓ 空間の実現に付随する設備、消防、遊具等の検討
- ✓ 基本構想段階からアフターまで自治体の構想の実現に向けた継続的取り組み
- ✓ 利用者の愛着を生むワークショップ方式の計画策定
- ✓ 複数の権利者の所有する資産活用に関する専門的な知見の活用
- ✓ 再開発事業のノウハウを生かした合意形成



## 『地域資源を活用したおおらかな建築』

老朽化した観光会館を減築して、既存ストックを活用しながら観光案内所と広場を計画し、湯河原の湯治文化の中心となる温泉場の玄関口を再生しました。



**まちなかの拠点**  
老朽化した公民館を、観光拠点の玄関口としてにぎわいの広場へ



**建物を再生・活用**  
新耐震部分の建築活用と旧耐震部分の基礎部分活用によるデッキ整備



**新たな機能を導入**  
ブックカフェやコワーキングスペースの設置



**外部環境を活かす**  
都市公園の環境の再構築。万葉亭への接続と散策路への段差処理による接続

BEFORE

公民館

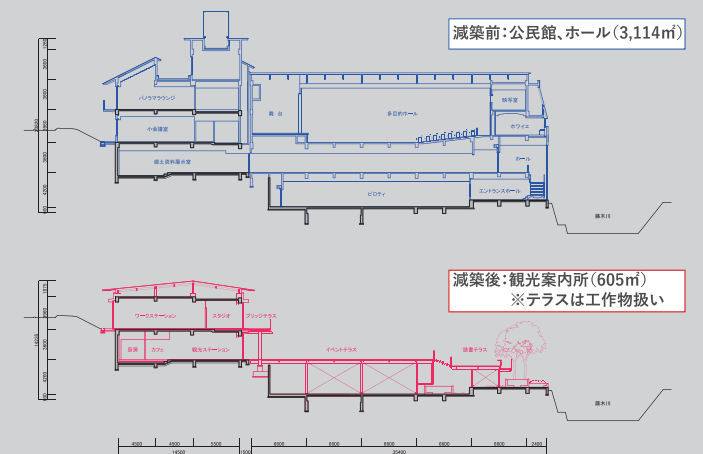


AFTER

観光案内所等



大幅な減築により公民館を観光拠点に再生



改修前：新耐震と旧耐震の混在した公民館

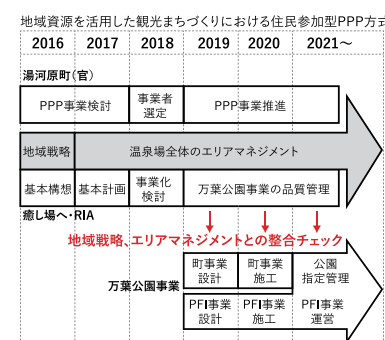
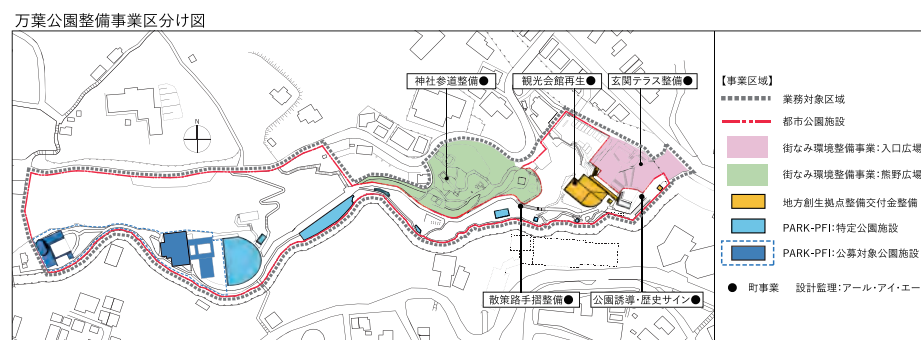
### Project Data

所在地／神奈川県湯河原町  
面積 敷地／19,500㎡ 建築／380.49㎡  
延床／1,334.81㎡ 改修／605.17㎡  
構造規模／RC造・地上2階建（3・4階部分減築）  
竣工完成／令和3年3月



## 1. 面的な広がり期待したまちづくり

湯河原町における都市公園万葉公園周辺地区の再整備を目的とした官民連携事業。平成28年湯河原町と住民による話し合いの中で、温泉場に観光客が立ち寄り居場所が求められ、温泉場区の地域戦略が検討されました。地域のまちづくりピークル「癒し場へ」が事務局支援から必要に応じて住民などへ内容のフィードバックを行い、継続的に「本当に地域が求める品質」を確保して、地域の求める構想を着実に実現しました。このスキームは「地域資源を活用した観光まちづくりにおける住民参加型PPP方式」として国土交通省の先導的官民連携支援事業に位置付けられています。



## 2. 既存躯体の活用

既存建物の昭和58年建設部分（新耐震）の4層の躯体を2層に減築し、昭和37年建設部分（旧耐震）はウッドデッキの広場を支持する基礎躯体として活用しました。崖と既存建物が一体化した部分に手を加えないことを条件に減築検討を行い、地域のヒアリングによる適切な施設規模にリニューアルしました。



## 3. さまざまな課題解決手法

さまざまな課題を着実に解決していくことで、理想とする空間を実現しています。

- ✓ 施設の再生とにぎわい広場の創出による観光拠点づくり
- ✓ 風致地区のまちなみに調和した外観計画
- ✓ 上階（2層）撤去を行い減築による新たな空間の創出
- ✓ 用途変更に伴う既存施設の荷重条件の検討
- ✓ 旧耐震躯体の基礎部分を活用したウッドデッキ空間
- ✓ 神奈川県産材の圧縮材による活用を行った木製家具
- ✓ 温泉場全体のエリアマネジメント
- ✓ 基本構想に基づいた町単独事業やPark-PFIなど官民連携事業を含めた複数の制度を活用した一体整備



# 寝屋川市立中央図書館

Neyagawa City Library

## 『駅前の既存ビルを生かした新たな市民の居場所づくり』

駅前整備の一環として再開発ビルの1フロアに、震災で被災した図書館を移転・再生させ、落ち着いた環境を創出し市民の新たな居場所を整備することで、新しいまちの拠点を生みだしました。



**まちなかの拠点**  
駅前に市民サービス向上に寄与する公共施設を導入し、にぎわいを創出



**部分的・段階的に整備**  
市が所有するビルの2フロアの内、1フロアを先行して整備



**新たな機能を導入**  
商業施設の1フロアに市立図書館を導入、市民の新しい居場所を実現



**建物を再生・活用**  
駅前の商業施設を活用し、居心地のよい落ち着いた空間を実現

BEFORE

商業施設



AFTER

図書館



各エリアをつなぐ移動空間 KAWA



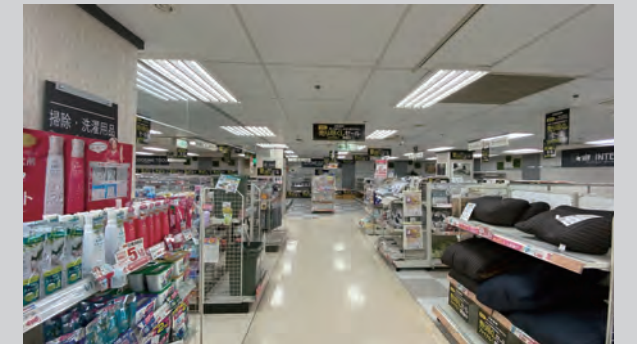
カフェスペース

さまざまな居場所

市民の新たな居場所となる館内にちりばめられた閲覧スペース

既存建物の無機質な空間を、居心地の良い新たな市民の居場所となる場に改修

35年以上前に建設された既存の商業施設は、天井が低く柱が均等に並ぶ無機質な空間で構成されていました。改修にあたり「新たな市民の居場所」「おとなの空間」「木のぬくもりと2つの灯のある空間」をテーマとして、居心地の良い何度も訪れたくなる空間づくりを目指しました。



改修前：商業施設の均質・無機質な空間



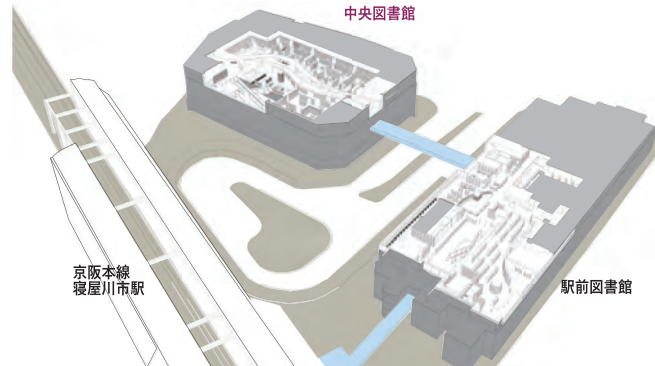
### Project Data

所在地／大阪府寝屋川市  
面積 敷地／2,981.41㎡ 建築／2,745.44㎡  
延床／19,552.95㎡ 改修／2,184.82㎡  
構造規模／SRC造・地下2階地上6階建（4階部分改修）  
竣工完成／令和3年7月

## 1. まちとつながる

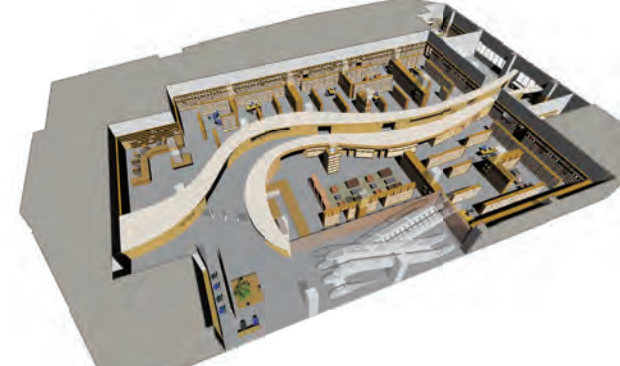
大阪北部地震で被災した市立中央図書館を移転し再生させるプロジェクト。市が取得した駅前商業ビルの1フロアに、自分の時間と居場所を求めて市民が親しみゆっくりと時間を過ごすことができる空間を創出しました。

同じく既存建物を活かし改修が計画されている駅前庁舎やこども専用図書館、生涯学習施設など、寝屋川市が進める駅前周辺整備と合わせて、市民サービス向上と駅前のにぎわい再生の核となります。



## 2. 新たな価値を生む

落ち着いた様々なパーソナル空間「NEYA」と、閲覧スペースをつなぐ移動空間「KAWA」を施設中央に配置。国産木材の書架と柔らかい灯でつつみ、思い思いの場所で時の移ろいを感じることができる環境を創出しました。



## 3. さまざまな課題解決手法

さまざまな課題を着実に解決していくことで、理想とする空間を実現しています。

- ✓ 自治体の構想の実現に向けた駅前の公共施設の段階的な整備
- ✓ 市民の新たな居場所の創出による駅前のにぎわい再生
- ✓ 天井材を撤去し開放的な空間の創出
- ✓ 既存の柱を見せない壁や書架の配置
- ✓ 用途変更に伴う既存ビルの荷重条件の検証
- ✓ 空間の実現に付随する設備や消防設備等の検討
- ✓ 居心地のよい落ち着いた空間を実現する照明計画
- ✓ 国産木材を活用した書架の計画
- ✓ 区分所有ビルにおける施設共用部の改修を含めた合意形成



# 近江町いちば館

Omi Market Building

## 『親しみのある風景の継承』

近江町市場の一部を再整備し集客力向上を図り、新たな機能を付加することにより利便性の向上やにぎわいの創出を目的とした再開発事業。



曳家により保存された北國銀行

地区内にある北國銀行武蔵ヶ辻支店（旧加能合同銀行本店 1932年竣工 / 村野藤吾氏設計）はランドマークとして市民に親しまれてきました。曳家により駅から続くシンボルロードに正対させ風景を継承すると共にギャラリー機能を加え保存・活用を図りました。既存市場のアーケード空間を踏襲し、違和感なく連続する市場の通りを建物内に整備し、市場の原風景を継承しました。

### さまざまな課題解決手法

- ✓ 伝統的市場風景の継承による魅力づくりと商空間再生
- ✓ 仮設店舗による市場店舗の営業継続とにぎわいの維持
- ✓ イベント開催できるまちなかオープンスペースの整備
- ✓ 地下ネットワーク整備による他施設との回遊性向上
- ✓ パス待合空間の拡充による交通拠点機能の充実
- ✓ 曳家による歴史的建築物の保存・再生
- ✓ レトロフィット免震構造による耐震性の確保
- ✓ 過剰な保留床を持たない持続性のある身の丈再開発

### Project Data

所在地 / 石川県金沢市  
面積 敷地 / 4,827.49 m<sup>2</sup> 建築 / 4,589.66 m<sup>2</sup>  
延床 / 17,349.81 m<sup>2</sup>  
構造規模 / SRC造一部S造、RC造・地下1階地上5階建て  
竣工完成 / 平成21年3月

# 奈良県橿原総合庁舎

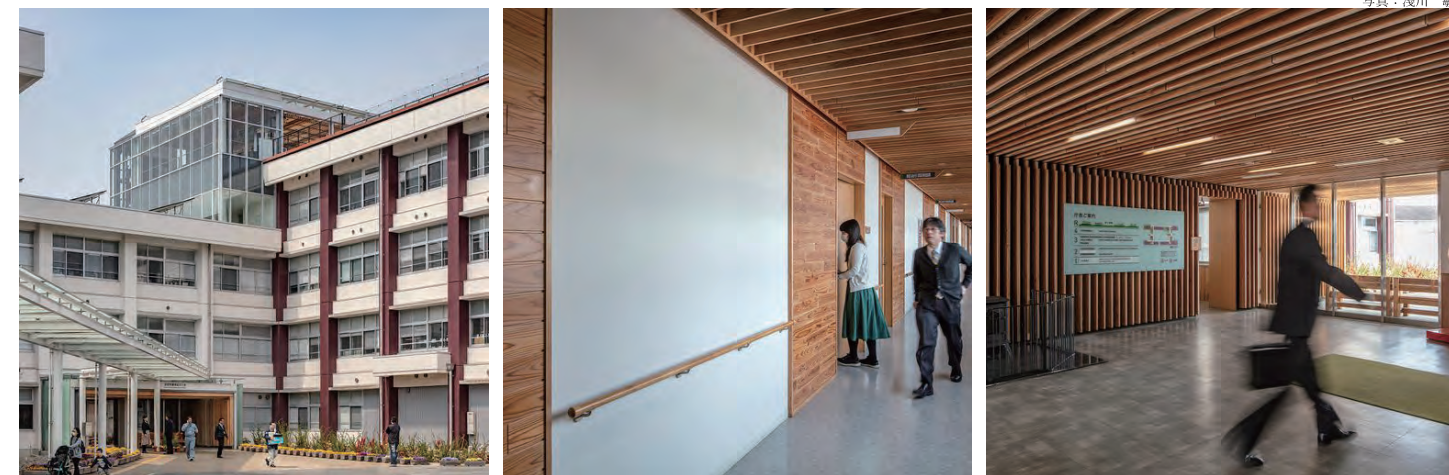
Nara Prefecture Kashihara City General Office

## 『歴史的景観を未来へつなぐまちの情報発信基地』

統合により廃校となった高校をコンバージョンして、分散配置している県内の施設を統合した拠点施設と、市民が集う眺望を生かした展望施設を整備しました。



写真：浅川 敏



県立高校の統廃合に伴い使用されなくなった校舎を県総合庁舎として再生しました。旧運動場に先行建設された大型集客施設（JA農産物直売複合施設）とともに県中部地域における行政サービスの利便性向上と活性化を企図して、一般利用に供する屋上庭園や内装の木質化、温かみのある館内の木製サイン、展望エレベーターによる施設のバリアフリー化などユーザーフレンドリーでやさしい庁舎空間を目指しています。

大和三山、藤原京を一望できる開放感あふれる眺望を活かして、施設屋上は緑とウッドデッキ、パーゴラを備えた展望施設として整備しました。藤原京を現在の交通網に重ねた巨大陶板地図や周辺地域に因んだ万葉集の和歌を解説する万葉スクリーンを設置するなど来訪者に憩いと学びを提供します。



### さまざまな課題解決手法

- ✓ 眺望の良い屋上庭園を一般開放し、万葉集にゆかりのある草花に親しむあらたなコミュニティの場を創出
- ✓ 眺望を阻害する棟屋を減築し、エレベーターの増築でバリアフリー化
- ✓ サッシの二重化や省エネ設備機器の導入
- ✓ 県産材による内装材の木質化

### Project Data

所在地 / 奈良県橿原市  
面積 敷地 / 16,155.97 m<sup>2</sup> 建築 / 4,081.69 m<sup>2</sup>  
延床 / 9,742.57 m<sup>2</sup>  
構造規模 / RC造一部S造・地上5階建て  
竣工完成 / 平成26年11月



# 堀川出水団地

Horikawa Housing Complex Demizu

## 『既存ストックを活かしてつくる多世代住人の多様な生活の場』

歴史的価値のある戦後復興住宅を再生し、新しい住まいの場と地域とつながるコミュニティの活性の場を生み出しました。



まちカフェホール (撮影 新建築社写真部)



高齢者支援施設 (撮影 新建築社写真部)

堀川団地は 1951 年に京都西陣地区東側に建てられた戦後復興住宅で、堀川通に沿って南北 6 棟が連なる日本最古の鉄筋コンクリート造下駄ばき住宅です。地域の防火壁として計画された立体町屋は終戦間際に解体された堀川京極商店街の再興と戦後の住宅難解消を企図された歴史的価値がある建物とされていますが、老朽化が進み空き家募集も長らく停止されていました。多世代・多様な共助をテーマに新旧の居住者が交流するコミュニティ空間としての利用活性化

として、福祉施設やコミュニティ系店舗の誘致、子育て支援住居、高齢者向け住戸、セルフビルド実験住戸を整備し、これらをつなぐ 2 階テラスを住まい手と地域が交流する commonspace として再構築しています。また窓台手摺、防犯格子。共用廊下天井は府内産木材ルーバーで修景、エレベーターホール自動ドアには西陣織の紋紙入り合わせガラスを、階段室の長窓には西陣織の生地を挟み込んだ合わせガラスにより地域のアイデンティティを表現しました。

### さまざまな課題解決手法

- ✓ 周辺の低層のまちなみと調和した建替えによらない再生
- ✓ 高齢者支援施設やコミュニティカフェ誘致による多世代交流の場・地域コミュニティの起点づくり
- ✓ セルフビルド住宅による新旧居住者交流の促進
- ✓ 市民や学生のワークショップに支えられたまちづくり拠点を併設
- ✓ 鉢植えの並ぶ路地裏的な私的共用空間をウッドデッキテラスで再整備

### Project Data

所在地/京都市京都市  
面積 敷地/1,678.79 m<sup>2</sup> 建築/1,293.31 m<sup>2</sup>  
延床/2,667.47 m<sup>2</sup>  
構造規模/RC 造一部 S 造・地上 3 階建  
竣工完成/平成 26 年 7 月

# 徳島市立図書館・シビックセンター

Tokushima City Library



## 『緑に囲まれた、利便性の高い駅前図書館』

駅前再開発ビルの空床となったホテル宴会場を活用し、緑豊かな利便性の高い図書館をつくる事で、コンパクトで利便性の高い、サステナブルなまちづくりに挑みました。



既存宴会場の天井高さを利用した開放的な閲覧室



徳島のシンボル、眉山が見える屋外テラス席



各閲覧机には植栽が配されている



ユーモラスな形状のソファや書架



シビックセンター・多目的ホール

1983 年に、RIA の設計による市街地再開発事業によって完成した「アミコ」ビルの改修です。徳島駅前に立地し、百貨店、専門店街、ホテルや文化施設の入居する複合ビルに図書館を組み入れる事により、より利便性が高く、人々の多様な交流が生まれるまちづくりを行いました。図書館は多様な植栽を取り入れ、ユーモラスな家具デザインを行う事で、やすらぎのある、親しみやすい空間づくりを行い、地域の活性化やにぎわいの創出に寄与しています。

### さまざまな課題解決手法

- ✓ 新たな機能導入によるにぎわい創出
- ✓ 駅前に新たな市民の居場所づくり
- ✓ 植栽を多用した心地よい空間の演出
- ✓ 階段を増設した上下階の連続性を高める
- ✓ 外部環境を取り込んだリノベーション
- ✓ 共用区画と連携した空間提案

### Project Data

所在地/徳島県徳島市  
面積 敷地/13,636.00 m<sup>2</sup> 建築/11,782.71 m<sup>2</sup>  
延床/88,146.15 m<sup>2</sup> 改修/3,260.38 m<sup>2</sup>  
構造規模/SRC 造・地下 2 階地上 10 階建 (3~6 階改修)  
竣工完成/平成 24 年 5 月



# 海老名市立中央図書館

Ebina City Central Library

## 『立体的に行き交う動線をプラスした図書館リノベ』

吹抜けの一部を減築しながら階段を追加し、プラネタリウムのドーム天井をキッズライブラリーとして再利用するなど、建物のポテンシャルを生かしてより多くの市民利用につなげています。



カフェ・書籍売場を併設した開放的な1F閲覧室



BF閉架書庫も閲覧室に改修



4Fプラネタリウムのドーム天井を生かしたキッズライブラリー



改修前：空間を生かし切れていない印象

老朽化が進んだ図書館を改修するにあたり、指定管理者が持つノウハウやアイデアを取り入れた改修を行い、これまでの図書館機能にとらわれず、より多くの市民の利用に供することをねらった公共図書館。「自分らしさを発見できる場」をコンセプトに子供から大人まで、誰もが気兼ねなく利用できることを意図し、本を通して様々な体験ができる滞在型図書館としての空間構成を再構築しています。

### さまざまな課題解決手法

- ✓ 既存建物のポテンシャルを継承した新しい居場所や空間の使い方提案
- ✓ 店舗やカフェ、イベント等の細やかな対応によりにぎわいづくりに貢献
- ✓ 避難動線計画の再構築による施設全体の空間の最大利用
- ✓ 木肌を多用する落ち着いた空間づくりやスケルトン天井などによる多彩なインテリア手法

### Project Data

所在地/神奈川県海老名市  
面積 敷地/2,914.95㎡ 建築/1,310.85㎡  
延床/3,659.79㎡  
構造規模/RC造・地下1階地上4階建  
竣工完成/平成27年8月

# 神奈川大学横浜キャンパス図書館

Kanagawa University Yokohama Campus Library



## 『継承と刷新 - 新旧のデザインを調和するリノベーション』

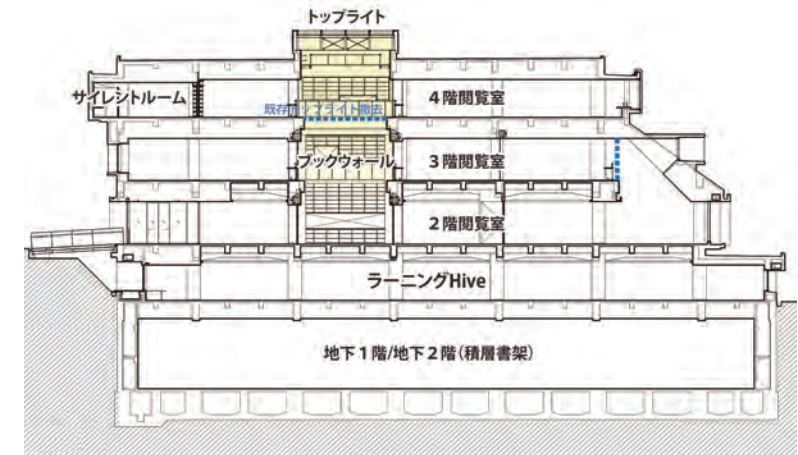
増築、大規模な修繕、用途変更にかからない設計の中で、既存建物の風合いや空間特性を活かしながら、新しく生まれ変わったことが一目でわかるリノベーション。



建物中央の3層吹抜けとブックウォール



既存レンガタイルを活かした閲覧室



断面イメージ



新設エントランス

1980年にRIAが設計した神奈川大学横浜キャンパス図書館は、レンガタイルや吹抜けが特徴的な建物です。確認申請を伴わない最小限の操作で改修するにあたり、既存建物の空間を活かすこと、カラースキーム、照明計画に注力しました。吹抜けを2層から3層に拡張し、シンボリックな本棚（ブックウォール）を設置。既存のレンガタイルに合うモノトーン調の内装を基調としながら、上階にいくほど静かで落ち着いた色構成・照明計画で構成しています。

### さまざまな課題解決手法

- ✓ 出入口を増設し学生が訪れやすい施設の顔づくり
- ✓ ラーニングスペースと併設した外部空間の取込み
- ✓ 外壁撤去によるキャンパスに開かれた図書館づくり
- ✓ トップライトの撤去による3層吹抜けの大空間の創出
- ✓ 既存レンガタイルと相性の良いモノトーン調
- ✓ スケルトン天井による開放感のある空間
- ✓ 間仕切り撤去により見通しの良い空間
- ✓ 耐震補強により構造体の耐久性を向上

### Project Data

所在地/神奈川県横浜市  
面積 敷地/46,090.02㎡ 建築/1,699.42㎡  
延床/7,876.58㎡ 改修/5,475.05㎡  
構造規模/RC造・地下2階地上3階建(地下1～地上3階改修)  
竣工完成/令和4年3月



# 業務案内

Outline Of Business

地域の歴史風土や周辺環境に配慮し、プロジェクトを推進します。

「建物の設計」から「まちづくりプロジェクトの具現化」まで、幅広い活動を行う設計・コンサルタント事務所です。

## 建築設計プロジェクト

RIAは、まちづくりの視点を建築設計に総合的に生かせる設計事務所です。

建築事業の企画・構想段階から、最適な空間計画へと実現へのステップを提案します。

質の高いデザイン力と確かな技術で、お客様の期待に柔軟に対応します。

## 都市・地域のまちづくりプロジェクト

都市や地域の「まちづくりプロジェクト」の企画段階から、次世代へつなげる都市空間を実現する仕組みをご提案します。

豊富な実績と確かな技術により、「まちづくり」の実現までをトータルにサポートします。

RIAは市街地再開発事業のパイオニアです。「再開発コーディネーター」として、常に地元寄り添い、行政や民間事業者等との連携を得ながら、着実に「まちづくり」事業を進めてまいります。また、建物完成後の「まち」の管理・運営が「まちづくり」の重要な柱と捉え、提案しています。まさに「まちづくり」の企画から運営までの提案と実現を行える会社です。

<b>■主な建築設計業務</b>
<b>企画・構想</b> 建築デベロップメント企画、企画設計、建替計画 基本構想・コンセプト等作成設計
<b>設計監理</b> 基本設計、実施設計（意匠・統括）、工事監理 構造設計、設備設計、ランドスケープ、土木設計 積算、リニューアル、コンバージョン、リノベーション PM、CM

<b>■主なまちづくりプロジェクト関連業務</b>
<b>企画・構想</b> 土地利用構想・計画検討、再開発計画検討 まちづくり初期調査等、まちづくり地元組織化支援、 開発企画検討等、跡地利用企画、都市開発手法調査等 建替基本調査・計画、マンション建替相談等
<b>プロジェクト推進</b> 事業推進コーディネート・コンサルティング業務 基本構想作成、都市計画関連手法による提案書作成 基本設計・実施設計等 資金計画・事業計画作成等 権利変換計画作成 工事監理・管理運営計画作成等



# 会社概要

Company Overview

<b>会社名</b>	株式会社アール・アイ・エー (RESEARCH INSTITUTE OF ARCHITECTURE)	<b>役員</b>	代表取締役 会長 取締役 副会長 代表取締役 社長 専務取締役 西日本運営 取締役 名古屋支社長 取締役 大阪支社長 取締役 大阪支社計画担当副支社長 兼神戸支社長 取締役 東京本社設計本部長 取締役 東京本社計画本部長 兼横浜支社長 取締役 東京本社技術本部長 兼東京本社設計副本部長	岩永 裕人 野久保 洋 梅澤 隆 奥村 雅一 川田 啓一 竹内 達也 村山 寛 永澤 明彦 小園 照弘
<b>沿革</b>	昭和9年 山口文象建築事務所設立 昭和28年 RIA建築総合研究所に名称変更 昭和34年 株式会社に改組し、 株式会社建築総合研究所に名称変更 昭和50年 株式会社アール・アイ・エー建築総合 研究所に社名変更 昭和62年 株式会社アール・アイ・エーに社名変更	<b>支社長および本部長</b>	金沢支社長 大阪支社設計担当副支社長 兼広島支社長 九州支社長 東北支社長 東京本社開発企画本部長	浅井 健治 中尾 武史 鷺田 靖之 金原 信 中尾 俊幸
<b>資本金</b>	9,500万円	<b>最高顧問</b>		宮原義昭
<b>登録</b>	一級建築士事務所登録 東京都・宮城県・神奈川県・石川県・愛知県・ 大阪府・兵庫県・広島県・福岡県			
<b>本社 支社 営業所等</b>	建設コンサルタント登録 都市計画及び地方計画部門 ISO9001認証取得 東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス 東京・大阪・名古屋・東北・横浜・金沢・神戸・九州 沖縄・中国（青島）			

皆様の思いをしっかりと受け止める。その願いを叶えるために全力を尽くす。いつも変わらないRIAひとりひとりの姿勢です。

クライアントのため、社会のため、最良で最適な解を導きだせるよう、ひたむきに考え、繰り返し議論し、提案する。創設者の山口文象の精神と気概は、今も私たちの中に引き継がれています。

それは同時に、住宅のRIAからまちづくりのRIAへと歩んできた歴史でもあります。その道筋の中で、多くの方々と出会い、教えられ、問題解決力と提案力を磨いてきました。

計画、設計から事業推進、そして実現した後までも建築・まちづくりのすべての過程において取り組む私たちの熱量は、鍛えられた総合力に裏付けられています。



株式会社アール・アイ・エー  
代表取締役社長  
梅澤 隆





東京	〒108-0075	東京都港区港南 1-2-70 品川シーズンテラス	03-3458-0611
東北	〒980-0021	仙台市青葉区中央 2-9-1 河西ビル	022-214-0067
横浜	〒230-0062	横浜市鶴見区豊岡町 35-2-606	045-717-9121
名古屋	〒450-0002	名古屋市中村区名駅 5-28-1 名駅イーストビル	052-586-5851
大阪	〒530-0027	大阪府大阪市北区堂山町 3-3 日本生命梅田ビル	06-6312-9154
神戸	〒657-0036	神戸市灘区友田町 4-4-17	078-822-3901
金沢	〒920-0919	金沢市南町 5-14	076-221-0369
広島	〒732-0828	広島市南区京橋町 1-23 大樹生命広島駅前ビル	082-262-8355
九州	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前 1-21-28 博多駅前スクエア	092-483-6271
沖縄	〒900-0033	那覇市久米 1-7-1	098-862-8449